



「公設公営学童保育の拡充と
指導員の継続就労を求めめる
緊急集会」 アピール

学童保育で働き続けたい

わたしは働き続けたい
学童保育の仕事を続けたい
私たちは働き続けたい
学童保育で仕事がしたい



ランドセルの中で上下にゆれる教科書の音は足音と同じく軽やかです。

“ただいま”と玄関の戸を開ける。

“おかえりなさい”とむかえる声に“にっこりと応える顔。”

そおっと足音もなく入って“おかえりなさい”の
声にうつむいたまま困ったような顔。

ひとりひとりの子どもたちの“ただいま”の表情
は毎日違います。

私たちは働き続けたい

私たちは学童保育を職業として選びました。
子どもたちはけんかのしかたがわからない。加減
をしらない。むれてあそぶ姿が見られない。心をよ
せあう関係がつかれず、ひとりひとりバラバラにさ
れている等々、子どもの今、子どもの育ちを問題に
する声は、あちこちから聞こえてきます。

私たちは“問題”を指摘することだけで、子ども
たちの“今”が“育ち”が、解決されるのではない
ことを知っています。

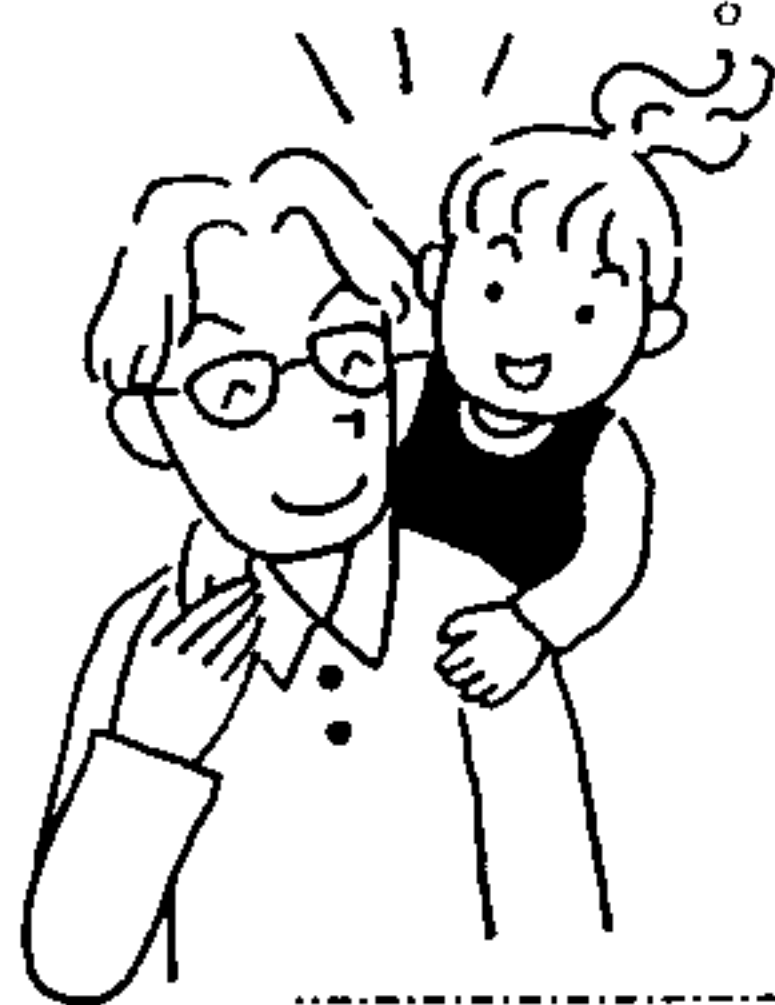
だから、ひとりひとりによりそいながらの毎日を
大切に生きていくのです。

私たちは、子どもたちひとりひとりにちがうくや
しさがあることを知っています。

悲しさに違いがあることを知っています。
怒りを誰にぶつけてよいのかわからず、あばれる
ことがあることも知っています。

喜びをとびあがって表わす姿を知っています。
うれしさを黙ってはおられず、分ちあう時のあの
なんとも言えない笑顔を知っています。

毎日、喜怒哀楽が共有できるおとなとすこす安心
が“ただいま”と帰る“今”の学童保育にあること
を子どもたちは知っています。



船橋市学童保育指導員労働組合





私たちは働き続けたいのです。

学童保育を続けたいのです。

働き続けたいのに働けなくなるのではないかと不安なまま毎日過ぎていきます。

学童保育を職業として選び、生活をしていきます。生計を立てています。

四月から学童保育の仕事は職業として選べなくなるかもしれない現実が、今、目の前にあります。

この仕事を職業として選びました。

「学童保育のこれまでの事業を後退はさせない」

「一生懸命働いている人が失業することはない」と市長は言っています。

私たちはこのことばにどれだけ期待をし、勇気づけられていることか。今もうらぎられることがないようにと願っているのです。

子どもたちを対象とした仕事をしている人たちが大切にされないことは、子どもたちやその親たちも大切にされていないことを私たちは知っています。

わたしは学童保育で働き続けたいのです。

私たちは学童保育で働き続けたいのです。

私たちは、わが子をおかえりなさいと迎えてくれている今の指導員に働き続けてほしいのです。

この思いは、一〇三〇五三筆の署名に託され、十二月三日、市長に届いています。

公設公営の学童保育に移行することによって学童保育事業は続くというのに、このままでは失業をよぎなくされる指導員が、働く仲間がうまれるかもしれないことを、深く重く受け止めてほしいのです。

生活できないことがはっきりしては、職業として選択できないのです。

学童保育の仕事が続けたい

市長は「事業を後退させない」と明言したので四月まであと三ヶ月余り。

私たち学童保育指導員と働く同じ仲間である父母そしてこの集会の主旨に賛同する者は、今示されている指導員の労働条件を更に改善すること、失業によって路頭に迷うことがないようにすることを強く求めます。

そして「公設公営の名にふさわしい学童保育の整備拡充をはかり、現指導員が引き続き働ける学童保育」を実現する決意をここに表明するものです。

指導員として働き続けたい！



船橋市学童保育指導員労働組合

1999年12月16日 No. 19

